

校章、校旗の由来



現在の校章が制定されたのは、昭和23年(1948)4月1日、学制改革により校名が「山梨県立甲府工業高等学校」と改称されたときのことである。

それまで武田菱をアレンジした校章が長く使われてきたのに対して、何か目新しい甲府工業高校のシンボルマークがつかれないかと、いくつか案が出されたという。その中から、生徒と先生の投票で、当時図画教官をしていた依田君美先生の山梨の葉を組み合わせた

「五葉」が決定したのであった。

5つの葉は、METACの5科を示し、工高の文字もひとひねりしている。

校旗は少し時期を後にして出来上がった。昭和3年4月28日、初めて校旗を樹立した際にそうであったように、やはり今回も校旗改装は同窓会の手でと、創立35周年の記念に同窓会員の芳志によって新しいものになったのである。

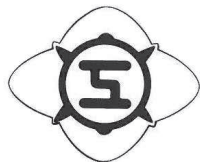
実はこの校旗、よく見ると五葉を囲むようにコロナ(太陽の光冠)の模様がうっすらと描かれている。「我らの母校、甲府工業よ、太陽のように強く輝かしい栄光をいつまでも」という願いが込められている。



大正6年4月
甲府市立甲府工芸学校



昭和11年3月
甲府市立甲府工業学校



昭和16年3月
山梨県立甲府工業学校



昭和23年3月
山梨県立甲府工業高等学校

生徒会のシンボル福竜



生徒会と福竜の由来

甲府工業高校生徒会の発足は、昭和23年(1948)11月頃自治会設立の動きが起こったことに始まる。昭和24年1月13日、自治会設立宣言が星義雄校長から出され、設立準備委員会を経て2月12日、正式に自治会として成立した。生徒会と名称を改めたのはその翌年からである。その後会則草案の作成、生徒会組織の充実など幾多の試行を重ね、生徒会の理想的な姿を目指して行った。

生徒会が充実するにつれクラブ活動も年々充実発展して行った。昭和39年(1964)は野球部の甲子園出場、サッカー部の全国大会ベスト8進出、ラグビー部の花園出場、バスバンド部の関東大会優勝等々、華々しい活躍であった。そんな折、「本校生徒会を象徴するものがないか……」との声が聞かれるようになった。

折しも第36回選抜高校野球大会(春の甲子園)への出場が決まり、その応援体制について応援委員会と協議した結果、その象徴に「福竜」が決定したのである。

「一旦時を得るや嵐を呼び、雷を響かせて天に昇る」

まさに、青雲の志に燃える男子の象徴として、本校生徒会のシンボルになった。この年の正月の郵便切手には「甲斐の福竜」が選ばれている。時は流れ令和の今でも、毎年学園祭「五葉祭」の正門を飾り、総合体育大会では陣頭でその雄姿が生徒の活躍を見守っている。